



秋の思い出



我が家は肉の卸売業でした。養豚業者から豚を買い、と畜場で食肉にして肉屋さんや都内のホテル等に卸していました。商売を手伝っていた祖父は年老いて辞めると、我が家の畑仕事をしてきていた賢おじさんと一緒に農業をして季節の野菜を作ってくれました。

秋になると畑にはさつま芋や里芋、大根等が収穫され、庭では柿やみかん、ザクロが取れました。山では栗など秋の味覚がたくさん収穫できました。祖母は栗飯や栗赤飯、渋皮煮、栗きんとんを作ってくれました。我が家の夕食は家族全員がそろって食卓を囲み、里芋や大根と豚肉の煮物やさつま芋の揚げ物などが並び、おいしい祖母の手料理で食も進み、祖父や夫、賢おじさんが晩酌しながらの冗談交じりの会話に皆笑顔になり楽しい一時でした。

今は、祖父母も夫も亡くなり、私の息子、娘は結婚してそれぞれの家庭を持ち、皆健康で充実した生活を送っています。孫は5人で、今年4月から社会人から小学生までそれぞれにバレエやピアノ、水泳、体操教室、学習塾通いと掛け持ちで忙しい日々を送っています。私にとって孫は生きがいで成長が楽しみです。

秋には町内会の秋祭りで我が家は御旅所となり、お囃子や神輿担ぎ達の休憩場所となりました。子ども達や老若男女の大勢の人達が集まるので、もつ煮を振舞い、それは好評で完食となりました。夫が亡くなってからは、御旅所は別の家になりました。昭和、平成のあの頃がとても懐かしい、秋の思い出です。



文： 矢治 慶子さん(西秋留地区)

表紙のことば

武田家は、かつては養蚕農家で敷地内には桑畑が広がっていたそうです。婿が入った信作さんは勤めながら畑を守ってききました。現在は代を継いだ娘婿の竜哉さんと長女の裕子さんが2人で農業を引き継いでいます。信作さんはお酒が好きですが、医師に止められ自粛中です。妻のチ力子さんは花が好きで、仏様に手向ける花も自宅の庭で育てています。庭が広く植木の選定など庭の手入れもチ力子さんが行っています。「最近夫婦そろって病院通いが日課よ」と笑いながら話します。

竜哉さんは就農8年目で、「農業経営を安定させ、家を守っていきたい」と意気込んでいます。裕子さんは竜哉さんと一緒に農業に携わりながら、趣味の野鳥観察を楽しんでいます。孫の千歳さんは小学一年生で好きな授業は図工です。また、習い事のダンスを楽しく頑張っています。3歳の八重さんはレゴブロックで遊ぶのが上手で、アンパンマンとおやつが大好きです。

チ力子さんは「自分には兄弟姉妹がいなかったため、2人の娘と5人の孫に恵まれたことが本当に幸せです」と話します。家族みんなが支え合いながら、温かい毎日を送っています。



武田さんご一家(多西地区)

後列左から▶

たけだ ゆうこ や え
(長女)武田 裕子さん (孫)八重さん

ちとせ りゅうや
(孫)千歳さん (長女の夫)竜哉さん

前列左から▶

しんさく こ
(ご本人)信作さん (妻)チ力子さん